

○ 第5回「ハートミーティング」 意見交換の内容について

プロジェクト
チーム
事務局 「歩くまち・京都 地下鉄増収・増客対策チーム」は、歩いて楽しいまち・京都を実現し、京都市民の大切な財産である京都市営地下鉄を一層有効活用するために、増収・増客をテーマとして活動を行っている、公募職員37名で構成するプロジェクトチームである。このチームは、4グループに分かれており、それぞれテーマを定めて取り組んでいる。今日は、各グループの代表者達が出席している。

市長 本来業務と違う分野で、このように取り組んでいただいていることに感謝している。公共交通の発展は、環境対策や観光振興などにつながっていく。あらゆる政策を融合させて、市民生活、市民サービスを向上させる取組はデスクワークだけではできない。安心安全を確保しつつ、使えるものは使い、スピード感を持って、失敗を恐れずに行動して欲しい。

メンバー プロジェクトチームの第3グループ「地下鉄おこし」では、動くコインロッカーがあれば便利ではないかという発想のもと、このプラスアルファのサービスで駅に足を向けてくれるお客様が増えるのではないかと考え、地下鉄の駅から駅へ手荷物を運ぶキャリーサービスについて、市民や観光客の方にアンケート調査を行った。その結果は、かなりの割合で肯定的な意見があったこと、また、実際にこの手のサービスを利用されたことのある方は100%、もう一度利用したいという評価であった。アンケート（口頭）では、みんな良い評価をしてくれるものの、実際にこのサービスを利用していただけるのか、そして荷物を預けた後、地下鉄を利用してくれるだろうか…まだまだ事業として、誘導策としての検討課題は多い。

今回の活動に対しても市内では良いも悪いも様々な反応がある。市全体で地下鉄の増収・増客に向けて頑張らなくてはいけないときなので、もっと熱くなって取り組んでいかないといけないと感じている。

メンバー また、「地下鉄おこし」では、地下鉄とレンタサイクル事業を融合させて、地下鉄利用を促進させる取組について検討している。実際に、レン

タサイクルを実施し、黒字となっている阪急電鉄にヒアリングを行ったところ、営利目的だけではなく、違法駐輪対策や環境への貢献のためにも実施しているとのことであった。

レンタサイクルは、必ずしも地下鉄の増収・増客につながらないかもしれないが、将来の京都市にとって大切な取組である。都市交通の一端を担うものとして、観光客だけでなく、通勤客や通学客にも活用してもらいたい。課題は多いが、実現に向けて進めていきたい。

メンバー 京都市は市バスが発達していて、地下鉄を利用することのメリットがあまり知られていない。市バスより地下鉄に乗る方が、料金は少し高くなるが、目的地に早く到着でき、時間に余裕ができるなどのメリットがある。第1グループの「ちーむNOTTE!」では、地下鉄をPRするチラシを作成し、西大路御池駅や松ヶ崎駅で周辺世帯に対して配布する準備を進めている。配布方法は、市民しんぶんへの折り込みを考えている。また、駅や区役所などでの配布も検討している。チラシには、時刻表や地下鉄に関するお得な情報を掲載している。このチラシ配布で効果が出たら、他の駅でも実施できないかと考えている。

市長 地下鉄を利用することで便利になるということを実感してもらう必要がある。山科駅で乗り換えることで、滋賀県にも早く行くことができる。

メンバー 地下鉄が便利であるということあまり知られていない。四条方面に行く場合、バスより地下鉄を利用した方が早くても、バス利用者が多い。

市長 地下鉄をうまく使いこなせたら、どこへでも早く行くことができる。

メンバー 利用者に口コミで広めてもらえたら良い。

メンバー 第2グループ「仮称：北風チーム」では、大型施設を地下鉄沿線に誘致することなどを提言している。運転免許証の更新については、羽束師の運転免許試験場に行かなくても、地下鉄沿線でできるようになったら便利である。羽束師に行くのは不便だという声をよく聞く。

また、京都市の出生率はワースト3なので、その対策も兼ねて、地下

鉄沿線の店舗で男女の出会いの場を提供できないかと考えている。市が主催するとなれば、安心して参加していただければ、地下鉄の増収につながるのではないか。

市長 地下鉄で結婚式を行うのも面白い。

また、山科区には随心院というお寺がある。地下鉄ができ、行きやすくなったにも関わらずあまり知られていない。地下鉄を利用したら、意外と早くいろんな観光地に行ける。

メンバー 地下鉄の車内で、観光案内してはどうか。特に、京都は、文化や歴史について「勉強」して訪れると、普通の3倍くらい面白い場所であることを知ってもらったら良い。みんなこの面白さを知らないのではないか。

市長 10人が議論した場合、全員が賛成する企画はない。過半数が疑問に思う企画を、反対意見や異論を受け、傷つきながらもスピード感をもって磨き上げていき、そして実現することが大切である。全員が賛成するものは、かえって落とし穴があるものである。コンセンサスは大事であるが、あくまで方法であり、目的にしてはいけない。

メンバー アイデアを出すと、実施する前から、「調整が難しい。」等の後ろ向きな声をよく聞く。

メンバー ある大学の学生に、通学に利用する交通手段について、アンケートを行った。その結果、私鉄の利用が圧倒的に多かった。私鉄に比べて、地下鉄は運賃が高い。私鉄と、地下鉄では、3箇月定期の場合、金額に1万円ほどの差が出る。それならば、私鉄を利用するのも理解できる。学生がフリーで乗ることができる乗車券を発売するなどしてはどうか。

市長 私鉄も公共交通であり、交通局が運賃を値下げするなどして、公営交通に無理に振り向かせる必要はない。民業を圧迫するのではなく、同じ公共交通として、アイデアを出し合い、潜在的な需要を掘り起こし、相乗効果を目指すべきである。

先日、関西全域の学生や自治体職員が集まる会合があった。そこで、

尼崎市ではパッカー車に広告を掲載していると聞いた。また、学生から、ごみ収集員の作業服に広告を掲載したらどうか、との提案があった。同じように、本市でも、市バスや地下鉄の乗務員の制服に広告を掲載したら面白い。

メンバー それが可能なら、区役所をはじめ、一般職員の事務服にも広告を掲載したらどうか。収入の確保につながる。

メンバー 第4グループで検討しており、グループ名にもなっている「シンデレラ・クロス」とは、烏丸線と東西線が連結する烏丸御池駅において、両線の最終電車を5分程度停車させ、午前0時に東西南北各方面へ一斉に発車させるものであり、深夜客の利便性向上と需要の掘り起こしを狙ったものだが、実現にはハードルが高い。

市 長 どんなハードルがあるのか。

メンバー 他の公共交通機関、特に私鉄との結節等である。今後、どのように協議していくか課題である。また、地下鉄のダイヤ改正となるため、国土交通省との協議等も必要である。

市 長 現状、客待ちのタクシーがたくさん止まっている。地下鉄も午前0時まで運行しているわけだから、もっとアピールして、深夜、乗れるところまで地下鉄に乗ってもらって、そこからタクシー等を使ってもらえるようになれば良いのだが。

メンバー 地下鉄の駅が殺風景なので、物販を行い、駅ナカを盛り上げることも、第4グループで検討している。

 烏丸御池駅、山科駅や竹田駅など乗り換えで人の流れが多いところで、3～4社の事業者に短期間イベントをしてもらったかどうかと考えている。

メンバー 地下鉄駅にはもったいないスペースが多い。

 たとえば、芸術系の学生が発表したい作品を披露する場がなかなか

いようなので、そのようなスペースに活用したらどうか。文化の担い手の育成にもなるし、お客様も駅へ行けば、文化や芸術に触れることができる。これは人間形成にも絶対プラスに働くはずだ。

市長 NPOの団体に学生の絵を販売してもらったらどうか。民間の力を借りて実施するシステムを作れば良い。美術館にはなかなか行くことができないが、通勤、通学等で、地下鉄駅には毎日行く。それができればすばらしい。管理面等課題は多いと思うが、実現に向け頑張ってもらいたい。

「里の駅 大原」が大盛況であるが、農家の方が、京野菜をどこかで売れないか、と話していた。流通等の課題はあると思うが、地下鉄駅の利用は考えられないか。

また、年中、修学旅行生が来ているのは京都ぐら이다し、京都に来る修学旅行生が自分達の郷土の物産を宣伝するため、ゼスト御池などで販売するのも面白い。移動に地下鉄を使ってもらえる。

メンバー 最近、修学旅行生はタクシーの利用が多いという現状からも、そういった取組と市バス、地下鉄を連動させられれば良い。

市長 いろんなアイデアがあるようだが、もう一息、突破力を発揮して、具体的な形にしてほしい。

教育委員会にいた頃に話していたことだが、「平凡な教師は、生徒に言っただけ。良い教師は、生徒に説明をする。優秀な教師は、自分が率先して行動する。最高の教師は、人の心に火をつける。」このメンバーにも、熱くなって取り組んでいただき、アイデアを構想し、イメージして、具体的な形にしてほしい。

優秀な企業は、組織とチームとクロスしてやっている。仕事を離れて有志でチームを組んでおられる。それが自己研鑽になり、人脈を広げ、それを仕事に返している。

役所にはそれがない。局の壁や殻を破ることは大変。やろうと思うと若者・よそ者・ばか者と言われるが、何を言うてんにゃと。それを破ってくれなければならない。

メンバー このプロジェクトチームの活動は全庁一丸となってスタートし画期的

だと思う。でも、活動期間が短い。チームの設置から半年で、5～10年先をイメージするのは難しい。みなさんいろんなアイデアがあって、夢があって、可能性も大いに進めたいものがあると思うのですが、このチームは残らずとも、同じような縦割りに縛られないチームを作って、この現状を打破していこうというお考えをお持ちでしょうか。

市長 市役所に働いていて、京都市の情報と課題意識を共有して行動につながっていく。これをすべて職務としてやっていくのは限界がある。

権限と責任と同時に幅広く考えながらやっていく仕組みができなかったら、政策の融合と市民との共汗はできない。

組織で仕事をするのとチームを組みながら横断して、勉強して、経験して、必要な意見を聞きながら実行していくことが大事。

提言しっ放しで終わるのはもったいないしね。もし許されるなら、有志のクラブとしてできて行って欲しい。教育委員会でも110のクラブで自主研修を行っている。これが財産。教師たちが仕事の後、活動されている。これを全部役所のシステムの中に入れてしまおうというのは、なかなか難しい。サンセットでやらなければ、いっぱい仕事が増えてしまう。

この「歩くまち・地下鉄増収・増客対策チーム」についてはこれで終わっていいのかどうか検討してもらおう。ちょっと（活動期間が）短いんやな。

メンバー 中途半端な活動で終わるのは心苦しい。

メンバー アイデアを実現するには障壁もあるが、どうやってその壁を崩していくか。できれば実現したいと思っている。

メンバー プロジェクトチームは4グループに分かれて活動していたので、このハートミーティングは、他グループと意見交換する良い機会になった。今後も、4グループ連携して取り組んでいきたい。

メンバー 人が作ったルール等は変えられないものはないと思う。課題は多いが、続けていきたい。

メンバー このようなプロジェクトチームへの参加に手を挙げる職員が多くいることが京都市の財産だと思う。

メンバー 固定観念にとらわれているところがあり、面白いと思っても、みんな、その実現を諦めていることがある。もっと頑張っ取り組んでいきたい。

市 長 京都で市民ぐるみでできることは全部やる。そして限界を超える。国の制度の枠組みも変えていける。新たな展開は意外なところにチャンスがあるものである。引き続き、チャレンジして欲しい。

 そして、この取組，人とのつながりを作った経験を，いろいろな業務に生かして欲しい。

以上